S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

インフルエンザ
―昨冬の流行状況―

昨冬（2004-2005シーズン）のインフルエンザ流行の特徴は、

① 患者発生規模（延べ患者報告数）は、過去5シーズンと比較して一番大きかった。

② 患者報告数のピークは例年よりやや遅く、埼玉県で第6週（2月7日～2月13日）、全国で第9週（2月28日～3月6日）であった。

③ 主な流行ウイルスはA香港型とB型であった。全国的にみるとB型が若干優勢であり、またAソ連型ウイルスも分離された。

などが挙げられます。参考までに県内の過去5シーズンのインフルエンザウイルス分離数を下表に示しました（近年、衛生研究所へ搬入される検体数が減少しており、ウイルス分離数と流行規模の大小は一致していません）。

最近の全国のインフルエンザに関する情報によると、春から夏にかけても地域的な小流行や施設内流行が発生しています。これから本格的な流行シーズンを迎えるにあたり、県内においても高病原性鳥インフルエンザウイルス、SARSコロナウイルス等の海外での動向も視野に入れ、慎重に監視を継続することが必要です。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取に御協力をよろしくお願いいたします。

県内のインフルエンザウイルス分離数

シーズン	Aソ連	A香港	B	C	計
2000-2001	54 (41.9)	33 (25.6)	42 (32.5)	0 (0.0)	129 (100)
2001-2002	37 (22.6)	105 (64.0)	21 (12.8)	1 (0.6)	164 (100)
2002-2003	0 (0.0)	95 (52.8)	85 (47.2)	0 (0.0)	180 (100)
2003-2004	2 (2.7)	64 (87.7)	6 (8.2)	1 (1.4)	73 (100)
2004-2005	1 (1.3)	38 (50.0)	37 (48.7)	0 (0.0)	76 (100)

＊（ ）内の数字はパーセントを示す

インフルエンザ、その他の感染症に関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ（http://idsc.nih.go.jp/index-j.html）でご覧になれます。